

6年生のみなさん、卒業おめでとう。旅立つ君たちへ 最後のメッセージです。

毎年、6年生に向けて学校だより特別号を出していました。でも、せっかくなので全ご家庭で読んでいただければと思い、63号としました。校長の卒業生への想いを共有していただければ幸いです。

6年生のみなさん、ご卒業本当におめでとうございます。本荘小に赴任してから3年間、あなた方にはいろいろなお話をしましたが、卒業する君たちへ校長先生の最後のメッセージです。それは、「夢をかなえるためにどうするべきか」についてです。まずは、次の作文を読んでみてください。原文のままです。

### 「夢」

ぼくの夢は、一流のプロ野球選手になることです。

そのためには、中学、高校で全国大会に出て、活躍しなければなりません。活躍できるようになるには、練習が必要です。ぼくはその練習にはじしんがあります。ぼくは3歳の時から練習を始めています。3歳~7歳までは半年位やりましたが、3年生の時から今までは、365日中、360日は、はげしい練習をやっています。

だから、一週間中で友達と遊べる時間は、5時間~6時間の間です。そんなに、練習をやっているんだから、必ずプロ野球の選手になれると思います。

そして、中学、高校でも活躍して高校を卒業してからプロに入団するつもりです。そしてその球団は中日ドラゴンズか、西武ライオンズが夢です。ドラフト入団で、けいやく金は1億円以上が目標です。

ぼくがじしんがあるのは、投手と打げきです。去年の夏ぼくたちは、全国大会に行きました。そして、ほとんどの投手を見ましたが、自分が大会ナンバーワン投手とかくしんできるほどです。打げきでは、県大会、4試合のうちに、ホームランを3本打ちました。そして、全体を通した打ちつは、5割8分3りんでした。このように、自分でもなっとくのいくせいせきでした。そして、ぼくたちは、1年間まけ知らずで野球ができました。だから、この、ちょうしてこれからもがんばります。



そして、ぼくが一流の選手になって試合にでれるようになったら、お世話になった人に、招待券をくばって、おうえんしてもらおうのも夢の1つです。とにかく、一番大きな夢はプロ野球の選手になることです。

鈴木 一朗

この作文を書いた人は鈴木一朗さんです。、誰だかわかりますか。野球好きの人ならすぐわかったかもしれませんね。これは、日本やアメリカのメジャーリーグで大活躍した、イチロー選手が小学校6年生の卒業文集に書いた作文なのです。イチローさんの小学6年生の作文、どうでしたか。この作文のどこがすごいのでしょうか。

一つ目は、自分の夢をできるだけ具体的にイメージしていることです。学校朝会で紹介した大谷翔平選手もそうでしたが、自分がやりたいことが大変明確なのです。自分がプロになる根拠と自信を言葉にし、やろうとしていることが明確です。さらに、プロ野球選手になる夢がかなった先までイメージしているのです。例えば、「中学、高校でも活躍して高校を卒業してからプロに入団するつもりです。そしてその球団は中日ドラゴンズか、西武ライオンズが夢です。ドラフト入団で、けいやく金は1億円以上が目標です。」と書いています。(裏面へ)

プロになることに対して、自信をもって言葉にし、プロ野球選手になるプロセスも書いていますよね。中学と高校でも全国大会に出て活躍し、高校からプロの世界へドラフトで入団するという具体的な道筋です。入団先のイメージもできていて、中日ドラゴンズか西武ライオンズと具体的です。契約金も1億円以上と書いています。自らの夢を実現する道筋までを、まずは言葉にしています。

次に、すごいのは、夢をかなえるための「根拠と自信」です。今の自分に自信が持てるような努力をしているのです。「ぼくは3歳の時から練習を始めています。3歳~7歳までは半年位やっていたんですが、3年生の時から今までは、365日中、360日は、はげしい練習をやっています。だから、一週間中で友達と遊べる時間は、5時間~6時間の間です。そんなに、練習をやっているんだから、必ずプロ野球の選手になれると思います。」の部分ですね。夢を描いただけではなく、根拠と自信に加え、そしてこれから自分は何をやっていくのかについても明確なのです。

最後に、夢をかなえた先のイメージも持っているということです。この時点での夢は「プロ野球選手になること」です。しかし、夢をかなえた先にも触れています。ここも大谷選手と共通しています。二人とも同じようにお世話になった人への感謝の気持ちも忘れていません。作文の最後には、「ぼくが一流の選手なって試合にでれるようになったら、お世話になった人に、招待券をくばって、おうえんしてもらおうのも夢の1つです。」と書いています。ここがすごいのでしょう。小学6年生の鈴木一朗少年にとって、プロ野球選手になることは夢であるだけでなく、むしろスタートで、プロとして活躍しお世話になった人を招待して自分の活躍で応えたいという「夢の先」も描いています。小学校6年生でここまで考えていたのです。その後の活躍も願うことができます。

世界的に有名な成功法則と言われていることに、「思考は現実化する」ということがあります。本もいっぱいあるようです。イチロー選手の小学6年生の作文を読んで思ったのは、「思考は現実化する」ということの成功例であるということです。もちろんすべての人が同じように成功しているわけでもないでしょうし、思ったようにいかなかった人もいます。しかし、イチロー選手の成功は明らかな事実なのです。

この作文とイチロー選手のキャリアから学ぶことができることは、「思考を現実化する」ためには、確信を持って強く想うことなのではないでしょうか。それとできるだけ具体的にです。また、結果だけではなく、その過程や成功するための根拠や自信もイメージしていくのです。大谷選手が高校生の時に描いた「まんだらチャート」も同じです。しかし、単に願望だけでならば現実化は難しいでしょう。夢が空想や妄想のままです。ここまでやって、それに見合う努力を続けられれば、「思考が現実化する」のでしょう。ぜひ、具体的な夢を描いてください。校長先生なりにまとめましたので参考にしてください。

- ① 夢は自信をもって、具体的に描こう。
- ② 夢や実現させたいことは言葉にしよう。
- ③ 強く思うだけでなく、それに見合う努力をしよう。

一度きりの人生です。人のせいにしたり、逃げたりするのではなくて、自分で未来を切り拓いてください。人生を歩み、夢をつかむのはあなたです。この本荘小学校で学んだ皆さん一人一人が、そのかけがえのない命を大切に、自分らしく胸をはって自らの夢目指してくれることを心から祈っています。

そして、いつまでも「思いやりの心」で笑顔のあなたがたでいてください。

校長先生からの「最後」のメッセージです。忘れないでいてくれたら幸いです。(校長)

# ご卒業おめでとうございます